

# 滋賀県精神保健福祉協会だより

## こころの健康フェスタ2010に参加して



受付風景

十一月二十一日の日曜日、抜けるような秋晴れの午後、彦根市のひこね燦ぱれすにおいて、「こころの健康フェスタ2010」が開催され、約二五〇人の方が参加されました。

会場のロビーでは、滋賀県精神障害者家族会連合会主催の『案々展』も同時開催されていて、当事者の方々が製作された絵画、書道、折り紙、ビーズ作品等約一〇〇点が展示されていました。作品審査があり、滋賀県知事賞は、「秋の長浜城」（支援センターそら利用者一〇〇名による作品）が受賞しま



開会式



案々展 県知事賞「秋の長浜城」

した。ご自分の作品の前で写真を撮る方や、「お久しぶり、変わりない？」と声を掛け合う方、ロビーのあちこちから人溜まりができ、賑やかに会話が交わされていました。



表彰式

フェスタは、まず、主催者である滋賀県知事（代読： 苗村健康福祉部次長）、滋賀県精神保健福祉協会の山田尚登会長、日本精神科看護技術協会滋賀県支部、滋賀県支部の高間謙支部長よりご挨拶があり、続いて来賓の獅山向洋彦根市長よりあたたかいご祝辞がありました。

次に、精神保健福祉事業功労者知事表彰、滋賀県精神保健福祉協会表彰、日本精神科看護技術協会滋賀県支部表彰が行われました。いずれも、県内で精神保健福祉の向上に功績のあった個人および団体を表彰し、より一層の精神障害者保健福祉の励みとしていただくのを目的としています。

表彰式の後、受賞者を代表して下清水博明氏（大津赤十字病院神経科・精神科部長）が、「精神科医療には、プラス面とマイナス面がある。そのバランスの中で、マイナスを最小限にし、プラス面を最大限發揮していくこと、それが医療の役割であり、今後その努力を行っていきたい」と感想を述べられました。

舞台の雰囲気は一変し、ドクター山田（滋賀医科大学精神医学講座教授）とキャッフィーのコンビによる「みんなで一緒にメンタルヘルスチェック」が始まり、会場は一気に盛り上がりました。キャッフィーは、二〇〇九年に滋賀県のイメージキャラクターとして就任以来、忙しい毎日を送っているようですが、好物のえびをお腹一杯食べて、元氣ハツラツのようです。ドクター山田からも「元氣！」と太鼓判を



みんなで一緒にメンタルヘルスチェック

押されていました。

次に舞台は「こころの健康 お笑いライブ2010」— 笑いは百薬の長— お笑いコンテスト」へと続きました。出演者は、NPOサタデーピアの所長理事長（漫才）、メンズサタデーズ（漫才）、たつのやなべまろとエリザベス君（腹話術）、シュワルツカツ（不条理劇）の4組です。AKBならぬM KK（もうすぐ後期高齢者）の所長理事長の漫才が始まり、2年連続M— グランプリ予選落ちのメンズサタデーズの実力には会場は和み、人形（カエル）のエリザベス君に目を凝らし、あまりにシュールなシュワルツカツのコントに首を傾げ、まるで私も審査員のひとりのようになっていました。



メンズサタデーズ



所長理事長



たつのやなべまろ



シュワルツカツ

そして、いよいよ本日のメインプログラム、笑福亭学光師匠の「笑って笑

ってお元氣に」の落語です。舞台は高座に早変わり。学光師匠は、徳島県の生まれで、まず、阿波踊り（男踊り、女踊り）の違いを自ら踊って披露してくださいました。介護予防に取り組む市町村や、商店街のまちおこし、はては小学校からと様々なところから高座の依頼があるようです。



笑福亭学光さん

それもこれも、人と出会える落語家になって良かった、銀行辞めて良かった、徳島県を出て良かったと、どんどん感謝の気持ちが広がっていく。しかし、人が出会う仕事、お話しで人を笑わせる仕事であるが故に、人を傷付けていけないか注意をしないといけない」とも話されていました。会場からお客さんを舞台に上げて、南京玉すだれをして、六〇分の高座はあっという間に終わりました。最後に、学光師匠は、『笑い無くても生きていけます。でも笑いがあつた方がもっと楽しく生きられます。皆さんも今日から笑いの仕掛け人になってください』との言葉を残して、舞台は終了しました。

「もしもしかめよ」のリズムで「ああ、人生は涙あり（水戸黄門のテーマソング）」を歌ったり、後出しジャンケンで学光師匠の出すジャンケン（グー・チョキ・パー）にフンテンポ遅れて必ず負けるように出す。必ず負ける手を出してくださいと言われているのに、段々テンポが速くなると、知らぬ間に会場のあちこちで勝ち手を出す人が出て、舞台と会場がひとつになっていきま

ました。「笑って笑ってお元氣に」私も、私から笑って、そして回りの人も思わず顔がほころぶ、そんな毎日を送りたいと思いました。

（甲賀保健所 澤 慰子）

# 平成22年度 滋賀県精神保健福祉協会調査研究部会事業 勉強会「就労と結婚を語ろう!!」に参加して

十月十五日、近江八幡市にある地域生活支援センター「はらこ」とで、勉強会「就労と結婚を語ろう!!」が開催されました。平成二十年度にスタートして、これまでの風、オアシスの郷での開催に引き続いて、今年で三回目となりました。

ふらつとの勝負所長の「ようこそ近江八幡へ」という開会挨拶に続いて、座長の榎林先生から、この勉強会の趣旨の説明をいただいたあと、就労、結婚について二名の方それぞれの体験発表が始まりました。

就労についてのお話では、障害クローズドでのアルバイトでの苦労話やその後、働き暮らし応援センターの紹介からトライアル雇用、職員採用へつながり、今では店舗の店閉めを任せてもらっているという実体験と、その体験から、落ち込んで

も話ができるところがあつて良かったことや障害があつても仕事をすべきだし、怒られることがあつても、一人前に取り扱われていると前向きになれたことを力強く語られました。

続いて、結婚については、夫と二人の子どもがいる方が話をしてくださり、薬の副作用の話や保育園での行事がプレッシャーになって病気の症状に影響が出たことなどの体験談から、夫をはじめ保育所の先生、近所の方々などの周りの方の理解、支えてくれたこと、周囲が以前より優しくなつたと感じていふこと、結婚・子どもを持つ権利は誰にでもあつたことを話されました。おふたりの話を会場のみなさんは真剣な表情で聞き入つておられました。

コーヒータイムをはさんだあと、四つのグループに

分かれて意見交換が行われ、このグループもそれぞれの実体験や思いを語り合つて、予定の時間では足りないくらい盛り上がりつていました。

グループからの発表では、障害に対する理解や周囲の理解の大切さ、あせらずゆっくりと取り組んでいくことの大切さ、結婚するための経済的なハードル、など、いろんな意見が発表され、参加した方それぞれが思いが語られていました。短時間だったので、語りきれなかつた思いや意見もたくさんあつたかもしれませんが、みなさん満足そうな表情でした。

今回のように、みなさんがお互いに交流する機会が増え、就労、結婚に対する悩みが少しでも解決につながっていくような場の大切さを感じた一日になりました。当日参加いただいた

皆さん、スタッフの皆さんお疲れ様でした。この会が続いていき、また、どこかでお目にかかれることを楽しみにしております。

(滋賀県立精神保健福祉センター)

清水 仁



## ゲールで出会った人たち

橋本 明 (愛知県立大学教育福祉学部教授)

今回、ゲールの歴史の話題は小休止ということで、これまで私がゲールで出会った人たちとの交流についてお話したいと思います。

1996年8月5日、ゲールを訪れた私は宿を探していました。以前ドイツに住んでいた時、車でアントワープに向かう途中に一度だけゲールに立ち寄ったことがありましたが、日本から行くのはこの時が初めてでした。翌8月6日には、里親での家庭看護を管理運営しているゲール公立精神病院（以下、OPZと略します）を訪ね、関係者から話を聞くことになっていました。日本からアポをとっていたのです。国鉄のゲール駅で列車を降りて街の中心まで歩き、インフォメーションで教えてもらったのが「パンドラ」というB&B（ベッド・アンド・ブレイクファースト、民宿みたいなもの）でした。地図をもらい、宿をめざして歩くこと約1時間。旅行の荷物をすべて抱えて、もう限界というところで運河に到達。めざすB&Bを経営しているルセさんとペーターさんは、この運河に停泊している船の中で暮らしていました（→写真1参照）。客は運河沿いにある家の2階に泊まるのですが、朝食は船に移動して食べることになっています。2人との何気ない会話をとおしてベルギーの日常を共有できた気がして、なんとも嬉しくなりました。こうして彼らの人柄に魅かれた私は、その後もゲールを訪れる時は必ず「パンドラ」に泊まることになったのです。



写真1 B&Bの経営者ルセさんとペーターさんが暮らす船 [2001年3月、著者撮影]

私は1998年そして1999年にもゲールに短期間滞在し、資料調査のために図書館・文書館を訪れています。この時には「パンドラ」から自転車を借りて、街の中心や近郊をずいぶん走り回りました。この頃に知り合ったのが、ウィリーさんです。彼はOPZの中にある文書館の司書（アーキビスト）で、ゲールに関する文献のエキスパートです。大量かつ厚い資料の複写も、いやな顔ひとつせず引き受けてくれました。彼のおかげで、ゲールの歴史的な資料をかなり集めることができました。

しかし、本や論文といったいわば二次的資料（つまり他の研究者がまとめた間接的な情報）に頼っていた私のゲール研究は、やがて大きな転機を迎えることになります。それは、19世紀後半から20世紀前半にかけてゲールを訪問した人の名簿が、OPZに残っていることを知ったからです。かつてゲールの家庭看護を見学に来る人は、ベルギー法務省の許可が必要でした。名簿には見学を許可されて当地を訪れた人の名前、住所、職業や、見学時の感想などが書かれています。2000年にゲールを訪れた時にこの名簿の存在を知り、欧州留学中の1901年にゲールを訪れた東京帝国大学の呉秀三（くれ・しゅうそう）のサインを見つけることができました。小さな発見ですが、呉のゲール訪問を確認できたのは精神医学史上これが初めてです。

この時にひらめいたのは、「呉秀三と同じように、それぞれの国や地域の精神医療の未来を背負ってゲールを訪れた外国人は多いに違いない。呉のゲール訪問が日本の精神医療に与えた影響の大きさを考えれば、ほかの外国人にもそれぞれのドラマがあるだろう。名簿で得た情報をもとに、そのドラマを探索するのはおもしろい」ということでした。そこでウィリーさんに「この名簿をすべてコピーしたいのですが・・・」と頼むと、いと簡単に了解してくれました。コピーのためのゲール訪問は翌2001年でした。こうして、この貴重な一次的資料を全複写させてもらい、約900人分の名簿の解読と、訪問者を国別に整理する作業が始まったのです。やがて私の「ゲール訪問者を追い求める旅」が始まることとなります。この話は連載の第7話と第8話でご紹介する予定です。

さて、1年くらいかけてゲール訪問者名簿の分析を行いながら、「こんなことをしているのは自分だけだろう」と思っていたところ、ドイツにもゲール研究者がいて、私と似たような研究をやっているという情報が入りました。そのドイツ人は、私がゲール訪問者名簿をコピーして日本に持ち帰ったすぐあとに、ゲールのOPZにやってきて同じようにその名簿をコピーしたというのです。そうこうするうちに、そのドイツ人、トーマス・ミュラーさんからメールが来ました。ゲールのウィリーさんから「ハシモト」のことを聞いたということでした（その後、トーマスさんとは最初にベルリンで会い、ヨーロッパの他の街で何度か会う一方、彼も日本にやってくるなど、現在は家族ぐるみで付き合い合っています）。ところが、2003年か2004年だったでしょうか、そのトーマスさんを経由して悲しい知らせが届きました。ウィリーさんが亡くなったというのです。当時、私の研究はまだ途上で、その成果を彼に見てもらおうことができなかつたことが残念でなりません。



写真2 患者の刻んだパンを食べる牛  
[2005年5月、著者撮影]

家族の一員の猫が1匹。

ディアナさんは自分が担当している地区の里親のお宅に、私を案内してくれました。その家には里親である老夫婦と2人の患者がいました。里親のお話によると、患者には問題行動もあるものの、たいていは自分たちで解決し、困ったときにディアナさんに相談するということでした。この家は専業農家ではありませんが広い農地を持っていて、患者は牛の世話や畑仕事の手伝いをしています。患者の1人が私のところに来て、普段やっている仕事を見せたいと言います。彼の後をついて、家屋に隣接する牛舎に入りました。不要になったパンを細かく切って、それを牛に与えるのが日々の仕事なのです（→写真2参照）。

ディアナさんのところにホームステイをした2005年のゲール訪問時、私は「パンドラ」にも泊まり、またまたルセさんとペーターさんに会っています。ところが、B & Bの看板だった船は、維持が大変なので売ってしまったとのこと。骨董的な価値がある船だったようで、現在は博物館に収められているのだそうです。

ところで、今は亡きウィリーさんの後任は誰なのか、気になっていました。ディアナさんによれば、OPZの文書館司書のポストは空いたままだということでした。「もし、後任が決まったら教えてください」とディアナさんをお願いし、ゲールでの日程を終えた私は帰国しました。

それから約2ヶ月後、ディアナさんから「新しい文書館司書がベルトさんという人に決まった」というメールがきました。私のゲール訪問者名簿の研究も、多少は形になってきていたので、ドイツ語や英語で書いた論文を新しい司書の人に送りました。ウィリーさんへのせめてもの追悼の意味を込めて。ところが、このあと話は意外な方向に展開していくことになります。

しばらくしてベルトさんから「論文を受け取った」旨のメールが来ます。同時に知ったのは、ベルトさんはパートナーのティネさんと毎年のように日本にやってくる、各地の秘湯を訪れるほどの日本ファンだということです。彼らが日本にやってきた2007年7月にはじめて会い（それまではメールだけのやりとり）、一緒に京都の岩倉へ行き、2008年7月には愛知県立大学に来てもらい（→写真3参照）、2009年8月には名古屋で「ひつまぶし」を食べたり、逆に私が2008年3月にベルギーに行った時には彼らの家を訪れたり、頻りに会っている感じです。

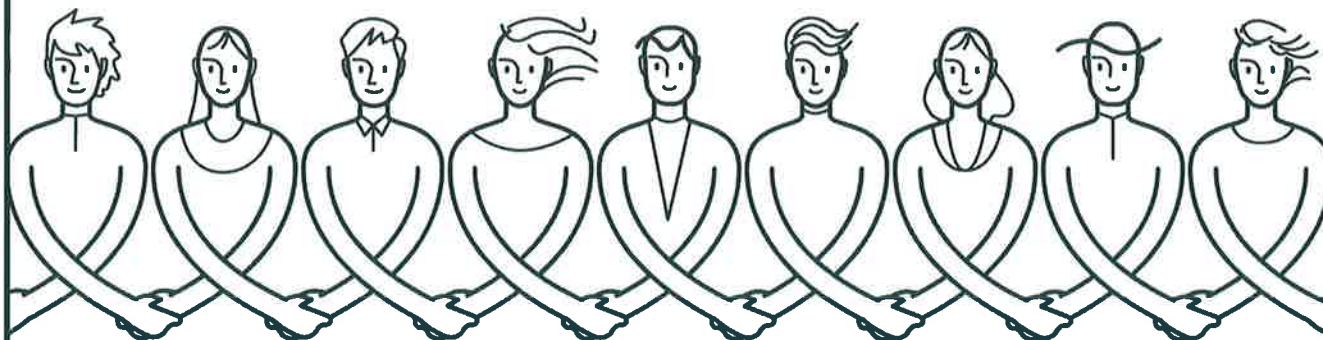
そんなこともあってか、ベルトさんから依頼されて、「Geschiedenis der Geneeskunde」（訳せば『医学の歴史』）というオランダ語圏の読者を対象とした専門雑誌に、ゲールに関する論文を書くことになりました。私はゲールが日本の精神医療史に与えた影響を、上記のドイツ人トーマスさんがドイツに与えた影響を執筆するという共同論文です。トーマスさんと私はオランダ語の文章は書けないので、英語で書いたものをベルトさんに訳してもらいました。まさに3人の共同作業です。この論文（タイトルは「国境を越えるゲール：ドイツと日本における精神科家庭看護の歴史」）は2010年秋に公刊されました。論文がゲールの人たちの母語に訳されたことに大満足ですし、これでゲールと私との関係は新たな章に入ったな、と思っているところです。（第4話につづく）



写真3 愛知県立大学の橋本研究室でのベルトさん、ティネさん、学生たち [2008年7月、著者撮影]

Lilly

ひとりひとりの輝くあしたへ。



いっしょに、道を広げましょう。これまで、これからも。

イーライリリーは精神科医療の向上と、  
精神障害に対する「偏見」や「差別」を  
なくすための活動を支援してゆきます。

[www.schizophrenia.co.jp](http://www.schizophrenia.co.jp)

(統合失調症に関する一般の方向けサイト)

リリーの情報はインターネットでご覧になれます。<http://www.lilly.co.jp>

日本イーライリリー株式会社

〒651-0086 神戸市中央区磯上通7-1-5



Working together for a healthier world™  
より健康な世界の実現のために

みなさまに希望をお届けするために。

様々な病気に打ち勝つため、ファイザーは「新薬」の開発に世界最大級の研究開発費を投じています。<sup>\*</sup>

\*世界企業のR&D投資額ランキング(2009年 欧州委員会まとめ)

ファイザー株式会社 [www.pfizer.co.jp](http://www.pfizer.co.jp)

一緒に歩こう、笑顔へ続く道。

# All for your smile

統合失調症の患者さん、ご家族、そして支援するみなさまの笑顔のために。大塚製薬は、これからも精神医療に貢献していきます。



統合失調症情報局「すまいるナビゲーター」は、患者さんやご家族を対象に、統合失調症の病気や治療、社会参加のために役立つ制度のことなど、知っている役立つ情報を発信するサイトです。

すまいるナビゲーター

検索

All for your  
smile

Otsuka 大塚製薬株式会社

Otsuka-people creating new products for better health worldwide



## これまでも、これからも、 「患者思考」

患者さんのことを、自分のことのように考えると、見えてくるものがあります。いまだ満たされていない患者さんのニーズに応えるために何ができるか。何を優先すべきか。

私たちヤンセンファーマは、その最善の答えを導いていくため、これからも挑戦を続けていきます。

ヤンセンファーマは、CNS（中枢神経系）、真菌症、鎮痛・麻酔、がん領域のリーディングカンパニーを目指す、「ジョンソン・エンド・ジョンソン」グループの製薬会社です。



ヤンセンファーマ株式会社

〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-5-2 <http://www.janssen.co.jp>

# 「Life」を支える力



サノフィ・アベンティスは、  
医薬品およびワクチンの  
研究開発を通じ、  
可能な限り多くの人々の生活の  
質の向上に取り組んでいます。

サノフィ・アベンティス株式会社

〒163-1488 東京都新宿区西新宿三丁目20番2号 東京オペラシティタワー [www.sanofi-aventis.co.jp](http://www.sanofi-aventis.co.jp)

sanofi aventis

Because health matters

**S-O-N-G**  
for you!

シオノギにはSONGがあります。

歌があなたを笑顔にするように、  
薬だってあなたを笑顔にしたい。

私たちは、感染症、<sup>とつづ</sup>疼痛、  
メタボリックシンドロームをはじめ、  
様々な領域で皆様の健康に専任できるよう、  
努力を続けています。

もっと、人を笑顔にできる薬をめざして。  
SONG for you!  
シオノギです。

シオノギ製薬  
<http://www.shionogi.co.jp/>

2009.5.A42





浦添市てだこホール  
Urasoe City Tedako Hall



厚生労働大臣表彰受賞者



曾根 博氏



山口ミチエ氏

平成22年10月29日(金)第58回精神保健福祉全国大会が沖縄県浦添(うらそえ)市で開催されました。前日に台風が接近し飛行機は大揺れでしたが、当日は雲の切れ間に青空も見えるお天気となりました。

会場の「てだこホール」は真新しい円形の美しいホールで、随所に沖縄らしい飾り付けが施されていました。

全国大会は、開会の挨拶・祝辞に続き、長年、精神保健福祉事業に携わりその功績が顕著な方々に対し厚生労働大臣から表彰が行われました。滋賀県からは、曾根 博 氏(滋賀県精神障害者家族会連合会)と、山口ミチエ 氏(水口病院)のお二人が受賞されました。大臣表彰に続き、日本精神保健福祉連盟会長表彰、沖縄県知事表彰などが行われ、歓迎のアトラクションへと続けました。

第2部は、茶道裏千家の前家元、千玄室さんによる「安定は茶の心」と題する講演会が行われました。千玄室さんは戦時中、特攻隊に所属し、多くの戦友がこの沖縄の海で今も眠っていること、出撃する隊員を手持ちの茶道具と配給の羊羹で茶会を催し送り出したこと、共に辛い訓練に耐えた戦友たちが命を落とし自分は生き残ったことに対する思い、6月23日の沖縄慰霊の日には毎年必ず駆けつけるという千玄室さんの「お茶の心は平和を念じる心」という言葉から、平和への願いが伝わってくる講演会でした。

第3部では、「変わらない心の原点を求めて」と題して、新聞記者・教育関係者・精神科医のシンポジストから、学校でのいじめ問題に焦点をあてながら、沖縄の精神保健に関する諸問題について話し合われました。沖縄は全国平均に比べ所得も低く産業も少ないが、さりげない助け合いの精神「ゆいまーる」が暮らしに深く根付いている。この沖縄独特の「緩やかさ」をこれからも大切に守っていきたい、という発言に会場から大きな賛同の拍手が湧き、閉会となりました。

私にとっては20数年ぶりの沖縄訪問でした。道路は拡張され、近代的な県庁ビルや大型ショッピングセンターなどが建ち並び、すっかり様変わりした町並みに驚きましたが、産業はほとんどが本土や海外の資本で、県民は貧しいはまだ、とタクシーの運転手さんから聞きました。また、米軍基地がなくなれば失業者はもっと増える、基地の県外移設に反対している県民もいることをちゃんと伝えて欲しい、という切実な声にも、沖縄の現状を改めて考えさせられる旅でした。

(滋賀県精神保健福祉協会事務局 塚田結子)

## ピアカウンセラー 養成講座

NPO法人サタデーピア  
藤井美悠紀

平成18年度より5年間、滋賀県の委託を受けて開催してきたピアカウンセラー養成講座が今年で無事終了しました。ピアカウンセリングのルールや基本原則等を繰り返し学び合い、傾聴のスキルの演習などを行う計18時間の講座です。この5年間で延350名近くの方が受講され、41名の方が修了されました。委託は終了ですが、来年度以降もサタデーピア主催で開講いたします。修了生を中心としたピアサポート活動や継続研修も企画されており、ピアカウンセリングやピアサポートの活動が県内各地に拡がりつつあることを実感しています。詳細はサタデーピアホームページをご覧ください。

<http://www.satade-pia.net>

# 伝言板

## 市民公開セミナー 「アルコール依存と自殺問題」

日 時…平成23年1月30日(日) 13:00~16:00  
場 所…ピアザ淡海大ホール(大津市におの浜1-1-20)  
内 容…基調講演 アルコールとウツリ自殺予防をめくって  
講師 かすみがうらクリニック 猪野亜朗 副院長  
事前申込み…不要  
問合せ…滋賀県立精神保健福祉センター TEL 077-567-5010  
滋賀県断酒同友会事務局 TEL 077-583-4741



## 甲賀地域精神障害者家族会 のぞみ会 30周年記念事業 「第12回 精神保健福祉講座」

日 時…平成23年2月23日(水) 13:00~16:00(受付12:30)  
場 所…サンライフ甲西 2階 大ホール  
内 容…塚本正治さんトーク&ライブ“このまちでありのままに暮らしたい”  
第1部: 塚本さんのギター弾き語り講演会  
第2部: 塚本さん、地域の当事者の方を交えた座談会  
申込・問合せ  
(社)甲賀・湖南人権センター(あすばる甲賀)  
TEL: 0748-65-4020 FAX: 0748-65-4021  
E-mail: henshin@us-pal.net

## アメニティフォーラム15

日 程…平成23年2月4日(金)~6日(日)  
場 所…大津プリンスホテル  
内 容…テーマ:障害がある人の暮らしを豊かにしよう!  
~ねじれ国会だからできることがある~  
同時開催1:びわこアメニティバリアフリー映画祭2011  
同時開催2:アール・ブリュット・ジャポネ凱旋展  
パリに行った作家たち  
会 費…20,000円  
連絡先…アメニティフォーラム15事務局 TEL 0748-75-8210

## ギャンブル依存症公開講座 「ギャンブル依存症って?その回復に向けてすべきこと」

日 時…平成23年2月25日(金) 13:30~16:30(受付13:00~)  
場 所…コラボしが21 中会議室(大津市打出浜2-1)  
内 容…講演 北海道立精神保健福祉センター 田辺 等 所長(精神科医)  
当事者の体験発表  
事前申込み…要  
問合せ…滋賀県立精神保健福祉センターTEL 077-567-5010



## こころの会 例会

日 時…平成23年2月13日(日) 13:00~15:00  
場 所…県立男女共同参画センター研修室B  
(JR近江八幡駅南口 徒歩10分)  
内 容…現在悩んでいること、薬のこと、病気のこと、等  
申込み…「こころの会」蒲生郡日野町木津192(事務局代表 吉澤康雄)  
TEL/FAX 0748-52-2918 (この会は患者会です)

## 思春期公開講座 「摂食障害を考える-その心理と回復のプロセス」

日 時…平成23年3月19日(土) 14:00~16:00(受付13:30~)  
場 所…G-NETしが(男女共同参画センター:近江八幡市藤岡町80-4)  
内 容…講演 NPO法人のびの会 相談室 武田 綾 臨床心理士  
当事者の体験発表  
申込み…不要  
問合せ…滋賀県立精神保健福祉センターTEL 077-567-5010



## 編集後記

◆地上で繰り広げられる余り嬉しくない出来事の数々をしばし忘れ、2010年は宇宙に目を向ける機会がしばしばありました。12月にはふたご座流星群に夢を託した人も多かったのではないのでしょうか。なかでもはやぶさが7年間6億キロの宇宙の旅の果てに、小惑星イトカワの物質を封入したカプセルを放出し、自らは大気圏に突入して燃え尽きる映像は感動的でした。鈴木・根岸両博士のノーベル化学賞受賞などもあって、平成23年度予算で科学研究費は仕分けの対象から一転して前年比31.7%(633億円)増につながりました。  
◆年末の恒例のM1グランプリは残念ながら第10回をもって終了することになりました。メンズサタデーは今年も果敢に挑戦しましたが、またも一回戦敗退でした。それでも精神保健福祉士としての本業に加えて、余芸としての漫才に磨きをかけ、心の健康フェスタ2010では優勝の栄誉を得ました。M1グランプリの最後の優勝者は笑い飯でしたが、当日の出来よりも過去9回連続出場という貢献度が評価されたようです。むしろ無名のスリムクラブが優勝者をおびやかしたのが印象的でした。「何とかならんかねえ」「民主党ですか?」のボケが時事を反映して秀逸でした。  
◆心の健康政策構想実現会議では、精神疾患をがん、循環器疾患とならぶ三大疾患として位置付け、それにふさわしい、こころの健康を守り推進する基本法の制定を求めて100万人署名活動を展開中です。12月11日には全国から有志があつまり新宿駅前で街頭署名活動を行いました。署名の最終期限は3月4日となっています。既に全国自治体病院協議会、日本精神保健看護学会などでは組織を挙げて、署名運動に取り組んでいます。滋賀県では家族会を中心に署名活動を行っていますので、ご協力をお願いします。  
◆現在自殺を防止する為の取り組みが各市町で熱心に行われています。しかし今年も自殺者数は年間3万人を越えてしまいました。これで平成10年から13年連続という異常事態です。心の健康政策構想会議提言書では、人口10万人当たりにか所の地域こころの健康推進チームの創設を提言しています。自殺対策が、予算消化ゲームとして終わってしまうのではなく、地域におけるこころの健康を推進するチームの具体的な実践として展開されることを期待したいと思います。  
(滋賀県精神神経科診療所協会 上ノ山)

## 会員数

平成22年12月20日現在

一般会員	個人会員	152名
	団体会員	36団体
賛助会員	個人会員	7名
	団体会員	10団体